

中学校における運動部活動と地域の外部指導者の連携に関する研究

A study of cooperation between athletic activity and external coach in junior high school

1K08B079-6 小林萌

指導教員 主査 間野義之先生 副査 木村和彦先生

【緒言】日本の青少年のスポーツ環境は学校体育が大きな割合を占めており、特に、運動部活動の存在は、スポーツ実施に大きな影響を与えるだろう。

その一方で、少子化による生徒数の減少による部活動の廃部、顧問教員の指導力不足等、様々な課題がある。2008 年に行われた教員アンケート調査によると、中学の教員で、部活動業務に対して負担があると感じたのは 41%と最も高い数値に達した。

また厚生労働白書によると、10 年前との地域の繋がりについては、変化していないが 47%に対し、弱まっているが 30.8%にのぼり、近年の日本は極端に地域間の繋がりが希薄化していることがうかがえる。

そこで地域の外部指導者と学校運動部活動の連携により、教員の部活動業務への負担を軽減し、地域との繋がりを強める必要があるのではないかと考える。文部科学省が提示したスポーツ立国戦略の中においても、学校と地域の連携を図ることで、スポーツ界の好循環を生み出し、学校体育や運動部活動の充実を図れると述べている。

【目的】本研究は運動部活動と地域の外部指導者の連携を検証し、その効果と課題を明確にすることで今後の運動部活動の在り方を考えることを目的とする。

【研究方法】東京都内の公立中学校で、実際に地域の外部指導者と連携している中学校 2 校の連携の実態を調査した。また、実際に中学校の顧問教諭 1 名と地域の外部指導者 1 名に、運動部活動と地域外部指導者の連携について、また今後の部活動の在り方についてインタビュー調査を行った。

【結果】第一に、運動部顧問教諭は部活動の業務に対する負担を感じており、中学校における過度な負担の原因としては、顧問教諭の減少や中学生に対する細かなフォロー等であることがわかった。外部指導者との連携によって、精神面での負担感の軽減はあるものの、教育活動

の一環である部活動においては、実際の業務量に変化がないのが現状であった。

第二に、地域の外部指導者との連携による、地域間のつながりについては、部活動での地域イベントの参加や、部員の保護者等の地域の方との交流があり、つながりがあると感じられるものの、顧問教諭が感じる地域の外部指導者であることのメリットは、練習への容易な参加や、地域の雰囲気を理解していることで得られる安心感等であるため、直接的に地域とのつながりを密接にしているという結果ではなかった。

【考察】以上のことから、運動部活動と地域の外部指導者との連携は、顧問教諭の業務負担を軽減し、また地域間のつながりを作る有効な手段ではあるものの、連携の仕組みが確立していないために、今後の発展には、まだ多くの課題が残されていることがわかった。

今後の部活動の在り方としては、何よりも部員が活動しやすい環境を作りためにも、顧問教諭と外部指導者が協力し合うことは必要である。外部指導者と連携をすることで、技術面のサポートがあるだけでなく、教師にも心の余裕が生まれる。顧問教諭はもちろん、外部指導者も教育者であることを忘れず、指導をすることが必要である。また、部活動が教育活動の一環であるため、学校と地域は今後も連携が必要である。その手段としても地域の外部指導者を活用することは重要であると感じた。スポーツ立国戦略において、運動部活動と外部指導者の連携を推進しているものの、土台が未だ確立していないために、今後、一刻も早く仕組み作りをすることが求められる。学校と外部指導者がマッチングできるシステムが機能していないこと等の、部活動と外部指導者の連携の実態を把握した上で、国として、顧問教諭と外部指導者が協力して作る部活動に対する政策を進めていかなくてはいけないと感じた。